

台灣先住民 教科書360種 12部族の40言語保護へ

台灣原住民 360種教科書 保護12族40語
360 Kinds of Taiwan Aboriginal Textbooks Reserving 40 Languages of 12 Ethnos

遠矢浩司 西日本新聞社 台北支局長

葉如蘭 翻譯



【台北18日遠矢浩司】台湾の学校現場にこの秋、先住民十二部族が話す四十言語の教科書が新しく登場した。多民族共生社会を掲げる民進党政権が四年がかりで初の統一教科書として作製。消失が懸念される先住民の言語や文化保護に役立つと期待されている。

統一版、当局が初の作製

台湾の先住民族は、太平洋や東南アジアなどに広く分布する「南島語族」に属している。

【台北18日遠矢浩司】原住民十二族所使用的四十語教科書，於今年秋天在台灣學校中正式登場，主張多元民族共生社會的民進黨政權歷時四年率先編纂了此套統一版教科書，期望能幫助保護瀕危的原住民語言及文化。

統一版、當局首創

台灣原住民族語屬於廣佈於太平洋及東南亞等地的「南島語系」，各族使用其

部族ごとに固有の言葉を話していたが、戦後台湾を統治した国民党政権が北京語教育を進め、いくつかの言語は消失、話せるものが十人前後のものもある。

これまで自治体や教育団体が作った教科書がばらばらに使われていたが、内容が難しすぎたり逆に不足したりしていた。そこで、行政院（内閣）の教育部（教育省）や原住民族委員会が政治大学（台北市）原住民族語教文研究センターに委託し、約四百人の編集委員が言葉の採取や録音、原稿執筆を進めていた。

新しい教科書は、九年間の義務教育と内容の進度にあわせ、一言語を九冊に分けた。ローマ字表記で現在の生活用語を中心に編集し、部族ごとの風習を描いたイラストも多用。教師が上手に話せないケースもあるため、音声CDも付いている。

同じ部族でも方言の違いが大きいため複数種の教科書を編集。例えば中南部の山地に住むブヌン（布農）族向けには五種類を作った。今年は四十言語それぞれ一—三段階の二十一万部を九月下旬、学校に配布。来年は残る四—九段階の三百六十種すべてを配布する。

編集作業を指揮した同センターの林修澈教授は「既に生活の中で使われることが少ない言語もあり、教える教師自身が話せないなど課題も多いが、先住民語の保護に役立つ現代的な教材になったと思う」と話している

特有的言語，然而戦後統治台湾的国民党政権推行國語教育使得部份語言消失，另有部分語言只剩下少數幾人會使用。

在此套教科書問世之前，各個自治團體及教育團體自行選用不同版本之教科書，內容或難或易、良莠不齊，因此行政院教育部與原住民族委員會共同委託政治大學原住民族語教文中心，動員約四百名編輯委員進行語言採錄、製稿等工作。

全新教科書將配合九年義務教育之內容調節進度，一個語別分為九階，以羅馬字書寫系統編輯現代之生活用語，且大量使用描述各族風俗習慣之插圖，並附有教學CD，供不熟悉族語的教師使用。

鑑於同一族之間存有方言差異甚大的情形，也編纂了不同語別的教科書，例如針對居住在中南部山區的布農族，即製作了五種教材。今年九月下旬起於各學校發行四十語別一至三階各二十一萬份，而明年將全面發行其餘四至九階共三百六十種教材。

該中心指揮編纂作業的林修澈教授認為「雖然部分語言在現實生活中已很少使用，並且也有如教師本身也不太會說等種種問題，這套教材已成為保護原住民族語的現代教材」。